増改訂 統一

慶應大學教授 統計學社副社長 横

飽まで大事を踏む

藤沼部長の調停問題

本日更に鈴木氏と會見

藤永田勞働爭議に就き新任の藤沼警察部長が居中調停の勞を執るだらうとの事に就き十三日午後七時藤沼部長に會見した友愛會長鈴木文治氏は語る

藤沼君は大阪が新任の地でもあり土地の事情、部下の氣質も未だ十分判つてゐないので此の小手調べの成功失敗如何を懸念してゐるので大事を踏んで一寸矢面に立つて仲裁しさうにも見えぬ、今の處では藤沼氏の調停説は先づ絶望と見て差閊へないかも知れぬが尚ほ十五日午後更に一回會見の約があるから其の上で何とか解決の曙光を見出し得るかと一縷の望みを殘してゐるが、私も折角大阪に來たのだから何とか解決の第一歩を踏み出す迄は歸京しない心算でまだ二三日は滯阪の豫定である云々

淺黄服と

褐色服で充ちた 批判演説會

は逃亡した、十時高山義三氏は治警第十七條に就き論じ最後に會長鈴木文治氏は結束を固めよと激勵演説を爲し萬歳三唱裡に十時四十分閉會した

因に罷工職工全部は十四日も晴天なれば午前十一時より大和川下流の廣場に集合して運動會を催すといふ

取調全く終る

大阪區裁判所檢事局の取調べ終つた西尾末廣以下大阪友愛會幹部等十名は今猶朝日橋署に拘留中で引續き檢事局に於て參考人又は證人として取調中の森周藏（東洋紡績西成分工場職工）外四名も夫々終了したらしく今十四日中には起訴か否かの最後の斷案を見る可きが多分西尾、東、松岡、藤岡、常石、島等外六名は起訴さるるにしても一時釋放せらるらしく察せらる

十三日夕刊 大毎

罷業職工團の神社めぐり

市部と郡部の二千五百名が 天王寺公園に落合ふ

大毎

藤永田造船所罷業職工團の結束は日々固まつて行くので友愛會の方でも至極樂觀の體に見ゐるが罷業團では更に此際一同の氣勢をつけるため市内各神社に參拜神前祭告なすることに申合せ一同は十三日午前九時半市電木津川線終點の大廣場に勢揃ひした、總勢二千に餘る大衆は十一時行を起し秩序整然と隊伍を組んで電車路を東へ西區新炭屋町の藤永田本工場前から所主永田三十郎氏邸前を例の如く勞働歌を高唱しつゝ通つて再び電車路に出で三軒家の八阪神社に參拜夫れより順路境川に出で九條茨住吉松島大神宮を參拜の上大正橋に引返し同町筋を難波櫻川より西濱を經て東へと午後零時半天王寺公園に入り休憩となつたが一方郡部罷業團の方でも約五百名午前十一時玉出に集合して順路住吉神社、阿倍野神社に參拜して二時天王寺公園へと繰込み先着の市部罷業團と落合つたが夫れより一同生玉、高津兩神社に參拜再び天王寺公園に引返しコヽで一旦解散を行ひ各自自由行動をとることになつたが一同は午後五時再び同公園に集まり六時半から公會堂で開かれる藤永田爭議批判大演説會に臨む筈

双方に誠意があれば 圓滿に解決しやう

藤永田職工代表卅餘名を招致した藤沼警察部長

藤沼警察部長は藤永田の爭議に就き十三日第一第二實行委員其他代表者卅餘名を本部に招致し當局の取締方針に就き説明する處があつた、右に就き同部長は語る。

詳しい事情が判らぬので當分調停等には出ぬ考へで居るが勞働者の側で爭議のある度毎に官憲は高壓手段を執つて壓迫すると云つた風の誤解があるらしいから豫め當局の方針を示して相互の諒解を得て置きたいと思つて招致したやうな譯だ、そして今回の爭議に對する吾輩の卑見も多少述べたいと思つて居る、一體我輩等が調停の手を出さずとも事業主と勞働者が雙方誠意を以て研究し折衝したら圓滿に解決する問題なのだから此際兩者が十分に反省して各の力に依つて局を結んで貰ひたいと希望して居る

鈴木、武藤氏等と會見頻々

前記藤沼部長は十三日夕刻迄に鈴木文治氏と會見する筈だが十一日來滯阪中の武藤協調會情報課長の會見が頻繁に行はれて居るのは爭議の解決上注目に値する

五名放還

四名は處罰

十一日住吉公園高燈籠前の廣場で警官隊と衝突し住吉署に檢束されて居た藤永田造船所罷業職工九名は其後取調の上山田勘市は職務執行妨害及び傷害罪として檢事局に送られ岡田明藏、市川伊之助、宮田忠三郎の三名は喧嘩投石等の廉により何れも七日間の拘留他の鈴木與吉外四名は檢束の上直に放還された

引續き喚問

朝日橋の拘留者

朝日橋署から大阪地方裁判所檢事局へ召喚取調を受けてゐた藤永田爭議の關係者友愛會の松岡駒吉、同大阪支部の西尾末廣等は十二日夜送還され更に十三日は東洋紡績

西成工場の職工團體が檢事局の喚問を受けた

友愛會幹部連の凝議

友愛會大阪支部の幹部連は十三日午前十時頃から西區新町の共益社に集合した、出席者は木村錠吉、平井美夫兩氏の外藤永田罷業團の幹部松村、大島、永淵、峰、黒木、村田の諸氏で何事か協議する所あつたが十四日午後六時再び同社で協議を凝らす筈だといふが右につき木村氏は語る

協議の内容は申上げる譯に行かぬが要するに會社を突ツ潰すか潰さずに我等の男が立て、勝つか、この二つの方法に就て打合せてゐるのです